

# 校長通信 第7号 平成29年度(2017年度)10月6日

## 前期長期研修報告会

9月13日水曜日、県立総合教育センターにて標記の件の報告会がありました。本校からは地歴・公民科の教諭が4月1日～9月30日の半年間の長期研修を受けました。これは、沖縄県教育課題の解決に向け研究を深めていくための研修です。本校生徒を活用、授業研究を続け、教育センターの担当指導主事等の助言を受けながら研究を深め、まとめ、報告を行うものです。以下本人のコメントです。



報告中



質疑応答

学力重視から多面的・多角的な学力を測る入試形態が増加しています。国公立大学においても推薦入試等の特別選抜枠が今後4、5年間で30%まで増加し、倍増していきます。また、「推薦入試の合格者が、リーダーとなってゼミ活動を引っ張ってくれる。」との声が大学側から数多く聞かれ、コミュニケーション能力や課題意識をしっかりと持ち、それをしっかりと伝える能力を高校時代に身につけさせることが重要であると認識しました。

これらの高大接続改革(入試改革)に対応するためにカリキュラムの研究、時代の変化に柔軟に対応するために本校で身につけさせるべき資質や能力をじっくり考えるべく、長期研修に参加しました。2年生を対象に検証授業を実施しました。テーマを「汎用的能力を育成する学習指導の工夫」、身につけさせたい資質・能力として、「課題発見・解決能力」「論理的思考力」「コミュニケーション能力」と設定しました。

私は2年生の授業を担当しましたが、すべてのグループが沖縄の課題について自分事としてとらえ、自分たちなりの解決策を模索しながら発表しました。生徒の発表の中で、「今、目の前にある課題を自分たち世代で解決して、次世代に連鎖させたくない。」「沖縄の中で切磋琢磨しながら沖縄を良くしていこう、そして、日本を良くしていこう。」とクラスメイトを鼓舞する場面があり、頼もしく思えたのと同時に、この思いや志を遂げられるようにしっかりと次のステップにつなげる役割を我々が担っている重責を再認識しました。

10月から本校に復帰し、変化する社会や求められる人材を育成するための方策を他職員と情報共有する中で模索し、総合的な学習の時間を活用して、時代の変化に柔軟に対応できる人材、時代を切り開いていける人材に必要な資質や能力の育成を目指していきたいです。(報告書は県立総合教育センターHPにて公開されています。)

## 野鳥が飛び交う校庭

本校の周りには自然が残っていて小鳥の飛び交う姿がよく見られます。ここからは、私の勝手な観察と思い込みで記載しています。根拠等はありません。

本校一年目は多くのスズメと許容範囲数のハトで賑わっていました。三年目に学寮ができてその玄関に桜の大木(病気で倒木)がありました。そこはスズメの楽園で夕方には何百羽が集まりました。帰寮する生徒はフンをかけられないように必死。時には…。その後、ハトが異常繁殖。許容範囲を大きく超えて十年目くらいには四百羽。不思議なことに毎朝八時にはグラウンドに全員集合するので数えられました。スズメは0です。オウム病、鳥インフルエンザが話題になり、自然の生き物ではあるがほととけなくなり、校舎をネットで覆うなど鳩の巣作りの場所を減らしました。しかし、こんなことではハトはくじけません。どこかには雨宿りできる場所があるのです。本校内でも人の出入りがないところにはフンが10cm以上は溜まりました。大袈裟ではありません。

今回、赴任してハトの激減、グラウンドで数える数十羽。驚きと疑問。時には、カラスが近くにいるのでこれか原因かと思いましたが、カラスの数からしてそうではなさそうです。校舎の屋根には太陽光パネルが広範囲に設置されました。もしかしたらこれかも知れません。太陽光でキラキラ光りハトが恐れをなしたのかも。今では、少しスズメが見られます(帰ってきました)。この秋にはツバメも見られます。他の野鳥、メジロ、ヒヨドリ?もいます。心洗われますよ。

以前は、夕方暗くなると校内の木々にコウモリもいましたが、現在は確認していません。

## 中学校・高等学校英語担当者合同研修会

沖縄県教育委員会主催の標記研修会が本校にて行われました。研究授業は本校の職員が担当しました。



研究授業の様子(左)、職員グループワークの様子(右)。英語力をつけるには? 熱心な話し合いと意見交換が行われました。

## 授業観察

子供たちの頑張りを応援することを目的に、私は、授業参観を実施しています。5月～12月で二回、日程は教諭に任せて調整しています。先生の観て欲しいクラス、学習展開に自信のある授業にて、ということですね。授業後は感想を1000文字以上でまとめて時間のあるときに読んでもらってます。一人一人工夫、それぞれなのでその感想です。また、全員に共通する内容としては、個人で考えさせること、ペア学習、グループ学習で他生徒の意見を聞くこと、全体の場面で自身またはグループの意見を伝えることを取り入れることの大切さです。「あの場面での展開には、こういうグループ学習が考えられますよ。」等です。

先生一人一人の授業展開の工夫は素晴らしいです。また、その指示により生徒は活発に、ときには、楽しそうに活動しています。自分の高校時代の一人対四十人の講義形式とは違ってきています。これは余談ですが、60分立ちっぱなしできませんので、空席に腰掛けています。なので、机を四つ合わせてグループを作るときは、自分も入ったりします。生徒に意見を求められることも。列で起立して順序よく答える際には、勢いで立ち、答えたこともあります。